

日本精神神経学会「精神医学・医療奨励賞」受賞者

第1回（平成10年度）

- 精神医学奨励賞： 平安 良雄 会員

[受賞対象論文]

Lower Left Temporal Lobe MRI 「Volumes in Patients With First — Episode Schizophrenia Compared With Psychotic Patients With First — Episode Affective Disorder and Normal Subjects」

The American Journal of Psychiatry 第155 巻第10 号 (1998 年) に発表

- 精神医療奨励賞： 「浦河べてるの家」（代表会員： 川村 敏明 会員）

[受賞対象業績]

「北海道浦河町において、従来の「医療」の枠をこえて、ユニークな構想のもとに地域の人々と一体となって数々の事業に取り組んできた。この活動は、今後の精神障害者の真のノーマライゼーションの方向性を指し示すものであり、我が国の精神医療の発展に貢献するところ大である。」

第2回（平成11年度）

- 精神医学奨励賞： 該当者なし

- 精神医療奨励賞： エスポアール出雲クリニック痴呆老人デイケア

「デイハウス・エスポアール小山」

（代表： 高橋 幸男 会員）

[受賞対象業績]

「互いに痴呆を認めあい、当事者の生きがいを大切にする集団療法的アプローチを導入した治療的実践により成果をあげてきた。そのユニークな運営によって、地域の高齢者医療福祉に貢献するとともに、痴呆性高齢者の医療と福祉のあり方に対して、一つの指針を与えてくれた。」

第3回（平成12年度）

- 精神医学奨励賞： 野原 茂 会員

[受賞対象論文]

Neural correlates of memory organization 「deficits in schizophrenia. A single photon emission computed tomography study with ^{99m}Tc-ethyl-cysteinate dimer during a verbal learning task.

Schizophr Res. 2000 May 5;42 (3):209-22.」

- 精神医療奨励賞： 該当者なし

第4回（平成13年度）

○ 精神医学奨励賞： 該当者なし

○ 精神医療奨励賞： 該当者なし

第5回（平成14年度）

○ 精神医学奨励賞： 橋本 亮太 会員

[受賞対象論文]

1. Hashimoto R, Hough C, Nakazaw T, Yamamoto T, Chuang D-M, Lithium Protects Rat Cerebral Cortical Neurons from Glutamate Excitotoxicity : Involvement of NMDA Receptor Inhibition by Decreasing NR2B Tyrosine Phosphorylation, J. Neurochem. , 80:589-597, 2002.
2. Hashimoto R, Takei N, Shimazu K, Christ L, Lu, B, Chuang D-M. Lithium Induces Brain-derived Neurotrophic Factor and Activates TrkB in Rodent Cortical Neurons: An Essential Step for Neuroprotection against Glutamate Excitotoxicity, Neuropharmacology (in press).
3. Hashimoto R, Senatorov V, Kanai, H, Leeds P, Chuang D-M. Lithium Stimulates Progenitor Proliferation in Cultured Brain Neurons, Neuroscience. 2003;117(1):55-61

○精神医療奨励賞： 障害者総合リハビリテーションセンター「麦の郷」

（ 代表会員 百溪 陽三）

[受賞対象業績]

「障害者総合リハビリテーションセンター「麦の郷」は障害者に労働の場を提供し生活支援を行うことにより障害者が自立をつかみ地域生活を実現することを目的として活動している。就労施設として、クリーニング、印刷、リサイクル雑巾製造、製パン、クッキー、裁縫、陶芸など多彩な職種と精神障害者福祉工場ソーシャルファームピネルが運営されており、医療面からこれらの活動をサポートする付設クリニック、リハビリテーション研究所が活動している。25年間、精神障害者が地域の中で生活することを目標として活動しており、その実績をふまえて精神障害者の地域生活支援の一つのモデルとして今後の活動が期待されている。」

○精神医療奨励賞： みなとネット21（代表会員 村上 雅昭）

[受賞対象業績]

「統合失調症に対して、医療と保健福祉を統合したevidence based な包括的アプローチを、多職種チームにより、アウトリーチとケース・マネジメントの手法、認知行動療法などの具体的な技法を用いて、約5年前より東京都心地域で実践している。日本に先例のない地域精神医療の方法であり確実な治療効果を挙げている。また、NPO 法人としてアドボカシー機能も果たしており、病院、診療所や社会福祉施設と連携を図り、当事者が21世紀に生き生きと生活できる戦略を提示している。」

第6回（平成15年度）

○ 精神医学奨励賞： 安野 史彦 会員

[受賞対象論文]

Inhibitory Effect of Hippocampal 5-HT_{1A} Receptors on Human Explicit Memory Am. J Psychiatry
2003; 160: 334-340

○ 精神医療奨励賞： 医療法人慈圭会（代表会員 菅野 圭樹）

[受賞対象業績]

1. 精神障害者の社会復帰とエンパワーメント、現代のエスプリ376
－ エンパワーメント、P 62～73、1998 / 11 .
2. 「ペンギン村の紹介」発表、「精神科医療の21世紀シンポジウム in 福島」2003（11月9日）における報告。
地方中都市での地域に根ざした患者中心の包括的精神保健・医療・福祉活動である。小規模であるが、いや小規模であるからこそ精神障害者の地域での生活に利便性があり、この種の小範囲の地域での活動が、これからの精神保健・医療・福祉活動にとって是非必要であり、「ペンギン村」は具体的なモデルとして提示されている。

○ 精神医療奨励賞： 社団法人日本てんかん協会(代表会員 八木 和一)

[受賞対象業績]

(社)日本てんかん協会は、わが国唯一の、てんかん患者とその家族・関係者の組織として1976年の設立以来、4半世紀以上にわたり活動を展開してきている。

日本で100万人と言われている患者は現在もなお、てんかんについての偏見や無理解が存在する中で、医療・教育・就労・福祉や暮らしなどあらゆる分野で困難を余儀なくされている。協会はこれまで国や自治体に向けての要求運動、相談活動、講座や学習会の開催、出版などによる情報の提供、会員同士の親睦・交流などさまざまな取り組みを全国の支部を通じて実践し、てんかん患者の福祉の増進に寄与してきた。

第7回（平成16年度）

○ 精神医学奨励賞： 該当者なし

○ 精神医療奨励賞： SST 普及協会（代表会員 西園 昌久）

[受賞対象業績]

入院医療中心から地域生活中心への転換が国の喫緊の課題となっている。この転換を円滑に進めるためには、社会復帰資源の拡充と同時に地域生活支援サービスの質の向上が必要であり、支援者の発想の転換と支援技術の向上が求められる。S S T 普及協会はこうした目的に沿い、精神障害を持つ人の希望の尊重、環境と個人の相互作用の中での個別的アセスメント、本人と共同での生活目標の設定、認知行動療法にもとづく系統的な練習による対処技能向上等の指導技術の普及に努めてきた。その結果、「希望を尊重し、出来ないことより出来ることを伸ばす」という精神障害リハビリテーションの理念が普及し、医療機関にとどまらず、

各種社会復帰施設、就労支援、矯正教育や更生保護事業、障害児教育、児童精神保健など、幅広い領域にS T が普及した。協会が実施している全国規模の経験交流会や学術集会、研修システム（認定講師が各地で指導に当たる）、ニューズレター発行が普及に貢献した。以上の活動を通じて、地域生活を支援する発想と技術を医師のみならず幅広いコメディカル・スタッフに普及させ、精神障害者の地域生活支援への貢献が認められる。

○ 精神医療奨励賞： 沖縄県立八重山病院精神科（通称：こころ科）

（代表会員 葛山 秀則）

[受賞対象業績]

日本最西端の八重山群島は石垣島をはじめ与那国島、西表島、竹富島などからなっている。沖縄県立八重山病院はその中心石垣島にあり、精神科には精神科医4名が勤務している。八重山群島

（人口5万）にはこの4名しか精神科医はいない。同院精神科では10数年以前から離島の与那国島（同2千）、西表島（同2千）、小浜島（同2百）、波照間島に2ヶ月に1回の巡回診療を継続して行い、離島の地域精神医療に貢献している。

第8回（平成17年度）

○ 精神医学奨励賞： 澤田 健 会員

[受賞対象論文]

1. Hippocampal Complexin Proteins and Cognitive Dysfunction in Schizophrenia. Arch Gen Psychiatry : Vol62, 263-272, 2005
2. Vulnerability of synaptic plasticity in the complex in II knockout mouse to maternal deprivation stress. Brain Research: Vol11056, 59-67, 2005

○ 精神医療奨励賞： 社会福祉法人稚内木馬館（代表会員 千秋 勉）

[受賞対象業績]

社会福祉話法人「稚内木馬館」は、昭和60年に開設された「稚内共同作業所手作り工房木馬館」を源とし、平成4年4月に設立された。

「全ての障害へのサービスの提供」「市民の共同の財産としての福祉サービス」「高いレベルの製品の作成」などを理念に、市民、病院、家族、行政とともに精力的、かつ地道に活動を行ってきた。

その結果、現在は授産施設、地域支援センター、共同住居、グループホームなど障害者に対する多くのサービスを総合的に提供し、北海道宗谷地方の地域精神医療に多大な貢献をし、欠かせない存在となっている。

第9回（平成18年度）

○ 精神医学奨励賞： 高橋 努 会員

[受賞対象論文]

- Morphological alterations of the parcellated superior temporal gyrus in schizophrenia spectrum. Schizophr Res 2006;83:131-43.
- Temporal lobe gray matter in schizophrenia spectrum: a volumetric MRI study of the fusiform gyrus,

parahippocampal gyrus, and middle and inferior temporal gyri. Schizophr Res 2006; 87: 116-26.

- Volume reduction of the left planum temporale gray matter associated with long duration of untreated psychosis in schizophrenia : a preliminary report. Psychiatry Res 2007; 154: 209-19.

○ 精神医療奨励賞： 特定非営利活動法人ひょうご被害者センター

(代表会員 岩井 圭司)

[受賞対象業績]

「ひょうご被害者センター」は、平成14年(2002年)に、犯罪被害者・犯罪被害者家族の支援のために設立された。被害者支援組織は、現在ではほとんどの都道府県にあるが、本センターでは設立当初より当事者(犯罪被害者家族)が中心メンバー(理事)に加わっている点が非常にユニークであるといえる。そのため、当事者のニーズがセンターの活動に直接的に反映され、また当事者による自助グループへの支援・交流も非常に密なものとなっている。つまり、ここでは当事者は単に援助される「対象」ではなく、被害者支援運動の「主体」として機能している。

第10回(平成19年度)

○ 精神医学奨励賞： 加藤 隆弘 会員

[受賞対象論文]

Risperidone significantly inhibits interferon- γ -induced microglial activation in vitro.
Schizophrenia Research 第92巻・PP108-115

○ 精神医療奨励賞： 該当者なし

第11回(平成20年度)

○ 精神医学奨励賞： 平野 昭吾 会員

[受賞対象論文]

Abnormal Neural Oscillatory Activity to Speech Sounds in Schizophrenia:
A Magnetoencephalography Study.
The Journal of Neuroscience, 28 巻19 号pp4897-4903 2008 年

○ 精神医療奨励賞： 医療法人社団 草思会 クボタクリニック

(代表会員 窪田 彰)

[受賞対象業績]

東京都東部地区は、精神保健医療資源が他の地域に比べて極端に少ない地域であった。そのため、精神科救急事業が始まって、地域に心の病をもつ人々を支える場が乏しく、再発再入院のリスクが高かった。そこで、窪田氏は通院者クラブ「墨東友の会」の設立を皮切りに、様々な当事者を支える場を作り、1986年にはデイケア併設の精神科診療所を設立し、地域の精神保健・医療・福祉の統合的活動を展開してきた。窪田氏らのこれらの活動は、2002年に「社会福祉法人おいてけ堀協会」として認可された。

一連の取り組みは、東京下町に小さな拠点を数多く生み出し、点が面へと広がり、東京下町の医療と福祉の連携した地域ケアシステムを支えた。そして東京の下町に心の病を抱えた人々が仕事をし、街で共に生活できる「街づくりの文化」を作りだした。窪田氏はこのような、心の病を抱えていても共に暮らせる街づくりが、社会的偏見を是正する確実な方法であることを提示してきた。

第12回（平成21年度）

○ 精神医学奨励賞：小林 啓之 会員

[受賞対象論文]

1. A self-reported instrument for prodromal symptoms of psychosis: Testing the clinical validity of the PRIME Screen-Revised (PS-R) in a Japanese population. Schizophrenia Research, Dec 106 (2-3), 356-362, 2008
2. The effects of aripiprazole on insight and subjective experience in individuals with an at-risk mental state.
The Journal of Clinical Psychopharmacology, 29(5);421-425, 2009

○ 精神医療奨励賞：正光会御荘病院及びNPO法人ハートinハートなんぐん市場

(代表会員 長野 敏宏)

[受賞対象業績]

南宇和郡における地域住民ネットワーク活動は、交通過疎地である愛媛県の高知県境、南宇和郡愛南町で、正光会御荘病院を中心に行われている活動です。

昭和37年に単科精神病院である正光会御荘病院から始まった愛南町の精神保健福祉医療は、社会復帰施設の開設、家族会の立ち上げを経て、平成元年には精神障害者の社会復帰を考える会となり、後にNPO法人ハートinハートなんぐん市場（なんぐんとは南宇和郡をさす）へと発展していきました。ここでは、地域の住民ネットワークと密接に関連した精神障害者の社会復帰事業が行われています。代表の御荘病院長 野敏宏院長は、この活動に初期研修終了後の12年前から関わり、積極的に支えてきました。この団体の業績は、日本精神神経学会「精神医療奨励賞」にふさわしいものと考えます。

第13回（平成22年度）

○ 精神医学奨励賞：池田 匡志 会員

[受賞対象論文]

1. Identification of novel candidate genes for treatment response to risperidone and susceptibility for schizophrenia. Biol Psychiatry 67(3)p263-9, 2010
2. Copy number variation in schizophrenia in the Japanese population. Biol Psychiatry 67(3)p283-6, 2010
3. Genome-wide association study of schizophrenia in a Japanese population. Biol Psychiatry In press 2010

○ 精神医療奨励賞：該当者なし